

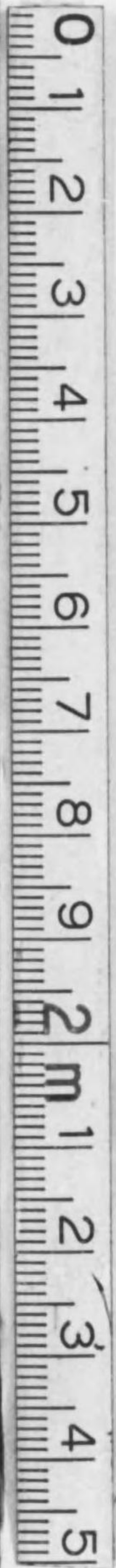
特 252

702

統制經濟と中小工業

京大教授
經濟學博士

谷口吉彦氏講演



始



特252
702

昭和十一年八月二十五日當組合臨時總會終了後午後四時より京都市寺町通丸太町上ル新島會館に京大教授谷口吉彦博士を招聘して經濟講演會を開催致しました。

本編はその際同氏の爲された講演速記でありまして、中小工業者に限らず一般經濟界の動きに深く關係を有する者にとりましては最もよき教訓と存じ茲に印刷に附して皆様の御参考に供したいと存じます。

京都内地向絹人絹麻機捺染工業組合



統制經濟と中小工業

京大教授 谷口吉彦氏述
經濟學博士

統制經濟云ふことが最近非常に喧しくなつて參りました。所が工業組合といふのも謂ふまでもなく一つの統制經濟である。さう云ふやうな所から今日は統制經濟と此の中小工業および工業組合といふことに就て私の考へを述べたいと存じます。

(1)
先づ最初に今日の時局と統制經濟とはさう云ふ關係になつて居るかといふことを考へてみたい。今日の世界の情勢を見ますると御承知のやうに非常に國際不安である。最近スペインに内亂が起つて來た。是はスペインの國內の問題であるけれども、併し世界の各國は各々兩方に分れて之を或は援けたり或は内々に援助をしたりして居る。即ちドイツとイタリアは革命軍を暗々に援けて居る。イギリスとフランスは政府軍に好意を寄せて居る、一國の内亂であるのに一方は政府軍を援け、一方は革命軍を援け世界の各國が敵味方に分れて動いて居るのが今日の状態であります。日本はただはつきり態度はしませんけれども、恐く此の情勢から見るにロシアに對する對立關係、イギリス

に對する對立關係等から判斷すれば日本はやはりドイツ、イタリーと同じやうな態度を執るのでは
ないか推察されるのであります。是が果して世界戦争にまで發展するか否かは問題であつて、今
日の所ではそこまで来ることは思ひませぬが、併し兎に角世界の形勢を見るに、能く謂はれて居るや
うに一たび觸るれば即ち發する一觸即發の情勢であることは謂はれて居る通りであります。經濟上から
云つてもさうでありまして、結論として今日の世界の情勢は決して平和には向いて居らぬ、平和と
戦争とをいつちに向いて居るか云ふこと、問題もなく世界は戦争に向いて居ること云ふことが出来るの
であります。果して現實に何時起るか又さう云ふやうに起るか云ふやうなことは將來の問題で分
らぬけれども、結局の所世界情勢は戦争に向いて進みつゝある。さう云ふ世界情勢から考へて見る
に、國防力即ち軍備の強化云ふことはもう誰が考へても必要なことは謂ふまでもない譯でありま
す。今日の時局をさう云ふ風に認識したりすれば、それと統制經濟はどんな關係にあるか云ふ
ことが問題であります。

第一に國防力の必要なことは謂ふまでもない、さうすること財政力の増大云ふことは是亦必然の
結論であります、随つて今日の問題はさうして財政力を強めて行くか云ふこと、今日の財政は二
十三億であるが、將來は二十三億で却々行くとは思へぬ。さうすること二十五億になるか、三十億に

なるか、寺内陸相の如きは五十億の財政でも驚いてはいかぬこと云つて居るやうな状態です。そこで
如何にして財政力を強めるか云ふことになるに、其の方法は二つしかない、即ち一つは増税によ
つて財政力を強める、そこで増税が最近問題になつて来たわけである。みんなものに増税するかは
今まだ分らぬが、凡その所は一億乃至三億でありませう。そこで難しい問題の起きて来ることは、
一億位の増税ならば困難はないがそれが三億四億の増税になると、さうしても多數の小さい者から
租税を徴らなければ税額が上らぬ。是は一つの租税の原則であります。即ち三億或はそれ以上の増
税をすることになれば國民生活を不安にする。又吾々の經濟産業を壓迫するといふことになる、例
へば所得税は千二百圓以上が今日の限度であります、租税を三億四億も徴ること云ふことになるに
其の限度を千圓に限らう、或は八百圓に下げよう云ふことになつて来る、そして非常に小さい所
まで壓迫を加へて来ることになります、さう云ふやうに國民生活を壓迫し吾々の國民産業を壓迫す
ること云ふことになるにそれは結局財政力國防力と矛盾をして来る。だから増税は既定の事實であつ
ても今日の問題は増税によつて國民生活を壓迫し國民産業を壓迫しないやうにしなければならぬ。
是が問題であります。それからもう一つ財政力を強める方法は是亦謂ふまでもなく公債によらう、
租税を出来るだけ徴つて足りない所は借金で行かう、是も程度は分らないが増税が一億もあれば公

債の方は非常に多くなるだらう。そこで又問題になつて来るのはそんなに公債が多くなれば悪性インフレが伴つて來はせぬか云ふことが心配になつて來る。悪性インフレが若し起つて來れば財政力は潰れてしまふ、國防力も潰れてしまふ。元も子もなくなつてしまふ云ふことになります。最近數年來は年々五億六億の赤字公債を出して今日では公債は百億圓までになつて居るけれども、今日までの所は非常にうまく行つて悪性インフレは少しも起らない。理想的に行つて居ります。是は諸外國で不思議に思つて居る、初め滿洲事變が起つた時には諸外國は、日本は偉いことをやつた放つて置けば財政的に潰れる。殊に支那の如きは如何にも日本が潰れるやうに考へた。だが其の後五年になるが少しもさう云ふ心配はなしに理想的に公債の發行が出來て居る。世界の各國は之を不思議としてアメリカ、ヨーロッパあたりの學者が日本に調べに來て居る。是は御承知のやうに日銀のマーケットオペレーションが非常に巧く行つて國民の公債消化力をうまく利用して後から公債が消化されて行つて居るからであります、さうして今後も是が果して何處まで消化されて行くか云ふ問題、消化されなくなる悪性インフレになる心配がある、そこで其の爲に色々の政策を執つて居る。最近の低金利政策が其の一つであります。御承知のやうに金利は逆に動く。即ち金利が下れば公債が上る。金利が上れば公債は下る。そこで政府としては日銀の公債賣出しが消化

されて行くためには公債の價額を上げて置かなければならない。下ければ國民が買はない、買はないければ悪性インフレになる。だから政府は公債の値段を維持して上げて置かなくてはならぬ。そこで政府が相當に金利を引下げ統制的に公債價格を維持して公債發行のからくりをうまくやつて行けばまださう急激に悪性インフレの起る心配はないと私は思ひます。要するにそれは方法が非常に影響する所であります。今では百億になつたらもう消化力がないとか、百五十億になつたら消化力がないと云ふことは言へない、今の處は非常に巧く行つて、政府が公債を發行するに日銀が一應引受ける、さうして金を政府へ持つて來る、其の金を政府がみんな出して來る。斯うなれば悪性インフレに忽ちなつて來る。所で此處に金が集つて來るに其の集つた金を吸上げて行く、之をやるに資金がうまく循環して行く、例へば十億の金でも十遍回轉すれば百億の公債が消化出來る、二十回轉すれば二百億の公債が消化出來る。今日でも其のオペレーションがうまく理想的に行けばさう近い將來に公債が行き詰つて悪性インフレになる心配はない譯であります。そこは悲觀する必要はない、がここまでそれが續き得るか問題であります。そこで多少増税をしても公債が消化されて行くためには結局國民經濟力が問題である、詰り國防力、財政力、經濟力此の三つの關係、國民の經濟力云ふものが地盤で財政力はそこから引出されて來る、其の財政力によつて國防力が

決まる、斯う云ふ三つの關係にあるのであります、それですから經濟力さへ強めてをけば増税をやつても國民は壓迫されない、苦痛なしに租税の負擔が出来る、公債を發行してもさう消化して悪性インフレにならない。經濟力さへついて居れば財政が今日の二倍になつても持つて行く。だから今日の問題としては國防力と財政力とはもう決つて居る。そこでさうして此の經濟力を強めるか吾々の經濟をさうして發展させるかといふことが今日の問題であります。其のために今日は統制經濟云ふことが問題になつて来る、即ちそれに耐え得るやうに國民經濟力を強めて来る。經濟力を強めるためには従來のやうなやり方ではいかぬ。新しい經濟方法で國民經濟力を強めなければいかぬ。其の新しい方法云ふのが即ち統制經濟であります。従來のやうな放任經濟では國民經濟力が十分強まらぬ云ふ所から出來て來た譯であります。

國防力を如何に強めても經濟力が弱ければ結局最後の勝利は得られない。是が國防と經濟との關係であります。ドイツは世界大戰の際には國防力が非常に充實してゐて、戰爭の方では諸外國を侵略しフランスにも這入り込みロシヤにも這入り込み戰爭の力は非常に充實して居つたが經濟力が弱かつたために結局みじめな戰敗を來たしたのであります。日本でも日露戰爭の際には連戰連勝して居りながらあゝ云ふ不十分な媾和條約をしなければならなかつたのは結局經濟力が弱かつたためであ

ります。昨年は日露戰爭三十年記念で色々陸軍海軍の話が新聞に出ました。あの時にもう一つ日本の財政經濟を解剖して其の状態を明かにする必要があつたと思ふ。其の當時に於て陸でも海でも連戰連勝であつたにも拘らず經濟力の弱かつたためにあのやうな屈辱的媾和條約を結ばなければならなかつたではありませんか。殊に將來の戰爭に於ては經濟力が非常に必要であるといふことは云ふまでもないことであります。即ち將來の戰爭は一國と一國との戰爭でなく、世界戰爭であります。そして將來の戰爭は長期に亘る、さうなるに經濟力が非常に大きな勝敗の原因になる、もう一つは將來の戰爭は科學戰爭になる。随つて非常に金のかゝる戰爭になる。さうして見るに、經濟の力が要る。さう云ふ譯で今日の情勢から見ると非常に經濟力を強めなければならぬ云ふことは謂ふまでもないことであります。

するにそれは統制經濟で以てさう云ふやうにして強めて行き得るかといふことが第二の問題であります。最近此の統制經濟に就て非常に怖える人がある、統制經濟とは一體きんなものであるか、吾々はもう四五年前から統制經濟のことは喧しく言つて居つたのであります、吾々の言ふうちに國民は少しも之に耳を傾けない。最近東京の二月事件が起つてそれを契機として統制經濟が非常に喧しく言はれて來るに初めて國民は吃驚して統制經濟とは一體さう云ふことであるか、それをや

るこゝになつたら吾々は一體さう云ふこゝになるのであるか、云ふやうな譯で非常に統制經濟が問題視されて來て居る譯であります。統制經濟に對してもう一つ怖えて居るのはこれに計畫經濟を混同するのであります。是は統制經濟は非常に違ふ。今日の統制經濟は云ふまでもなく私有財産は其のまゝに認める。それから營利企業も其のまゝに認める。其の點では從來の放任經濟は變りません。計畫經濟の方になるに私有財産を認めない、即ち消費財の私有は認めるが、生産に使ふ機械が工場には私有を認めない。それから營利企業は原則として認めない、國家が全部やる、是が計畫經濟、即ちロシアの經濟が計畫經濟であります。例へばモスコーに行くに大きなデパートメントストアがあります。所が是は全部政府が經營して居りまして、例外としては營利企業も認めますが、原則としては認めない。そこで私有財産がさうなるか、營利企業がさうなるか、非常に怖えて居る譯であります。從來は放任經濟であつて各個人の經濟活動を其の個人に任して置く、そして外部から之に干渉をしない、所がそれが行詰つて來て今日は自由放任から統制へ行かう、國家又は組合其の他外部から之を統制して行かう、其の個人の放埒な營利活動を許さない、外部から統制しようといふのが統制經濟、從來の放任經濟とは違ふが計畫經濟のやうに全く違ふものではないのであります。統制經濟は例へていへば今日都會でやつて居るやうなゴー・ストップであります。

詰り交通が少い時には放任で放つて置いてよかつたが、段々交通が繁くなつて來るに放つて置いては色々の衝突を來たし交通整理即ち統制をしなければならぬやうになる、最初は先づ左側通行からやる、それで衝突を免れる、所が段々交通が進んで行くに今度はゴー・ストップで止め云へば止る、進め云へば進む云ふ風に交通統制をやる。なぜ交通統制をやるか云ふにそれが必要であり又さうやる方がみんなの利益だからやるのである、それを誤解して今日でも左側通行が流行る云つて田舎の山奥で一里の道に一人か二人しか通らぬ所でも左側通行をやれば是は必要のない利益のない所でやるのであつて是は間違ひである。統制によつて利益を得、それによつてみんなのためになるといふので初めて統制が行はれて行くのであります。それから又統制をやつても、交通統制で明かなやうに、各々自分の力で自分の力に應じて交通をする。自動車で行く者は自動車で行き、自轉車で行く者は自轉車で行き、歩いて行く者は歩いて行き、各々其の分に應じて經營して居る。又各自お互の間に競争をして居る。自動車は自動車で競争し自轉車は自轉車で競争して居るけれども全く放任を許さないで、進め云へば進み止め云へば止り、又左側だけしか行けないやうに統制する、是は交通統制だ、さう云ふやうな方法を經濟活動の方へ持つて來ようとするのが統制經濟であります。それで統制經濟云ふのはそれが必要であり多數の者がそれによつて利益を得るから

統制をやつて居る譯であります。これで統制経済云ふものはさう云ふものか云ふことがお分りになつたと思ひます。

最近の電力國營、是が統制経済か否か云ふことが最近問題になつて來ました。一方反對論者は是は國家社會主義だ云ふ、國家社會主義云ふのは計畫經濟の一種であります。元來計畫經濟云ふのは國有國營であります。例へば日本で煙草專賣をやつて居る。鐵道は國家が經營して居る。所が今日の電力國營云ふのは民有國營であります。だから統制経済でもない。今で云へば統制経済計畫經濟の中間にある。鵜的存在であります。電力國營は國營がよいか或は統制がよいか云ふことが問題であります。何れにしても何等かの形で統制しなければならぬ云ふことが殊に中小工業の立場から最も大切であります。中小工業は非常に高い電力を買はされて居る。之に安い電力を供給するといふのが一つの國策であります。電力を安く供給するといふ意味に於てそれは統制した方がよいか國營にした方がよいか云ふことが問題であります。

さて統制経済といふのはもう既にすつと前から非常に進んで來て居ります。なぜ進んで來たかといふことは一つは戦後十一年も續いた不況の結果であります。不況はなぜ起つたか、それは生産過剰である。だからそれを制限しなければならぬ、けれども一人だけ制限して外の者の制限をしないでは駄目である、そこで皆一様に統制によつて生産制限をして經濟不況を打開しよう云ふので統

制的になる。所が統制したら不景氣が直つたか云へばさうでない。反對に不況は甚だしくなる。

かやうに統制経済といふのは最近の不況が原因になつて統制になる、統制が原因になつて不景氣になる、お互に原因になり結果になつてぐんぐん進んで來たのであります。それが戦後十一年間の状態であつて、結局それがだん／＼進んで來て何處へ行つたか云ふこと、かの千九百三十年の世界恐慌に陥つたのであります。千九百三十年即ち昭和五年の世界恐慌が日本では金解禁の恐慌と二重にやつて來た爲に愈々不況のきん底で酷い目に遭つたのであります。さうするに恐慌になつたら統制はさうなるか云ふこと、もう一つ恐慌が原因になつて又統制が進んで來た、十五六年間も統制経済が段々進んで來たのであります。最近時局の影響で統制経済が非常に變つて來た。斯う云ふ風に段々進んで來たが、日本では恐慌が大體打開されて御承知のやうに昭和八年からは日本は躍進々々で非常に景氣が好くなつて來た。不景氣が打開され恐慌が打開された。そこで昭和八年以後日本では統制経済はもういらぬ、悪い時には統制しなければならぬが、好くなつたから統制をやめて元の自由に戻らう云ふ運動が出來て來た。其の當時から私共はやはりさうではいかぬ、自由放任の行き詰りはもう試験済である。やはり統制経済でなければならぬ云ふことを當時言つて居つたのであります。それが今年の二月事件を契機として統制経済が非常な影響を受けて、其の結果として統制

經濟が方向轉換をしたのであります。

さて一口に統制經濟云ふが是には色々な統制經濟がある譯であります。まあ大體中小工業の統制はさう云ふ形を取るか云ふと謂ふまでもなく組合統制といふ形をこるのであります。是は中小工業に限らない、多數の小さいものが統制しよう云ふ時には必ず此の形をこる。農村の農業は小規模であるからそれを統制するといふことになる。産業組合の形をこる。それから商業小賣店卸賣店といふものが統制といふことになる。工業なら工業組合、輸出なら輸出組合、漁業なら漁業組合云ふやうな組合統制をこつて行くのが一つの統制經濟の形であります。其の外に財閥には財閥統制、カルテルにはカルテル統制、國家的にやる國家統制、又市役所では公設小賣市場を作るなと公共統制、まあ此の五つが主なるものであります。

此の五つの統制の中で組合統制云ふのが最近最も新しい形をこつて来たものであります。是は外國では餘り發展しない日本獨特の一つの形であります。だから此の組合統制のこは外國の本なみに餘り書いてない。是が非常に違ふのは箇々の經營者が團體を作つて、この團體が第三者なつて組合の中から統制する。自分等で組合を作つて自分等で統制する云ふので自治統制と言ひます。それで組合の成績が擧らぬこがある。色々なこが起つて組合の自治統制が出来ない、自治

統制がいかぬ云ふのが最近の問題です。けれども是は本當の自治統制ではないので、もう一つ其の組合の上に國家云ふものがあつて、是が工業組合法云ふ法律を作つて、其の國家の力による法律によつて組合が出来てそれによつてメンバーが統制されて居るのであるから、其の意味で本當の自治ではない、やはり官治と自治と一緒になつて居る。所で此の場合に此の官治の方が全くなければ本當の自治であるが、それでは統制出来ない。是には國家の統制が必要である。今日組合が色々なこが起つて色々うまく行きにくい、是は統制經濟をやめてしまはう云ふならば問題はないけれども今日の傾向として統制經濟がぎん／＼盛んになつて行く譯であるから、其の意味から更に統制を進める云ふ傾向になる、さうなるこさうしても是は國家統制が段々加つて来るのであります。國家の法律を改正してもう一つ強化する、さうするに國家統制が加つて官治的が強く進んで行くと思ふ、何しろ是は人類創つて以來の初めての經驗である。だから色々從來の經驗を参考にすることが出来ない。それがためそこに色々な困難もありそこに又うまく行かないこも當然起つて来るのであります。併し其の初めての新たな最初の經驗で新たな時代に適うた統制をやつて行かうこいふのが組合の統制の主意である。さう云ふ所から組合の統制がぎん／＼進んで来て居る譯であります。

其の他統制にも色々あるが、先に言つたカルテル統制、財閥統制、是は私益統制と云はれて居るのであります、即ち營業者が私の利益のために統制するのである、それから市役所なきのやる公共統制、政府のやる國家統制、是等は公の利益のために統制するのであるから之を公益統制といふ。そこで一體組合統制は私益統制か公益統制か云ふことが問題である。一方には組合員の利益を圖る云ふ點から云へば一つの私益統制とも云へる、けれどもそこには只一人の利益でなしに組合共同の利益、多くの人の利益を得よう云ふ所から云へば公益的の性質も幾らか含まれて居る。それで今日では組合統制と云ふものは私益統制と公益統制との中間にある、だから組合統制が私の利益にのみ終始するやうでは組合統制の趣旨に反する、けれども全然組合の利益を犠牲にしてしまつて公の利益の爲にのみ存在する云ふのであれば、それは組合統制の趣意に反するものと謂はなければならぬのであります。

それで今日までの状態はさう云ふ状態であつたか云ふと、日本の國民經濟に於て、從來の放任經濟もまだ幾らか残つて居る、そこへ新しい統制經濟が出来て來た、今言つたやうに非常に巨大な資本の財閥統制、それからカルテル統制、公共統制、國家統制と云つたやうな色々な統制經濟と云ふものが又出来て來た、それで從來までは放任と統制が争つてそこに矛盾を起し摩擦を來たした。

反産運動といふものがその一つであります、即ち反産運動と云ふものは放任經濟と統制經濟の争ひであります。それから又統制と統制との間に又色々な争ひが起る、例へば工業組合と輸出組合とそこに争ひを起す、又或は財閥統制と組合統制とがそこに争ひを起す云ふやうで、色々な統制經濟の間に争ひが起つて、それらが混沌として亂闘して居つた云ふのが最近までの状態であつた。

さう云ふやうな状態の處へ時局の力が偉い大きな力を以て打つ被さつて來た譯であります、そこで今まで混沌として居つた濫立状態が方向轉換をして或る一定の方向に進まうとして居る、是が今日の状態であります。それでは一體さう云ふ方向に向つて進まんとしてあるか云ふと、斯う云ふことが考へられる。第一に、放任經濟が段々狭まつて統制經濟が一層強く發展して行く、是は從來からあつた傾向ではあるが、それに一層拍車を加へて進んで行く云ふ傾向の一つはある。それからもう一つの傾向としては斯う云ふ點である、財閥の私益統制が非常に發展するに多數の國民は非常に迷惑する。上の方で材料品原料品を造る處がカルテル統制をしてしまふと中小工業は非常に壓迫を受ける、さうするにさう云ふ私益統制を國家が統制してそれを成べく公益と一致するやうに詰り私益統制から公益統制の方へ段々進んで行く、さう云ふ風な統制に行かうといふのが一つの傾向となつて出て來た。電力統制案と云ふのもさう云ふ所から來て居る。電力を私益統制でやつて居

つては中小工業は非常に壓迫される、それでさう云ふ統制にもう一つ國家が加つて、それが公益になるやうに統制しなければならぬ云ふ風に進んで来た。

それからもう一つはそれに關聯あることです、大産業に對してはそれが公益と一致するやうに國家が抑へて抑制的に統制して行かう、大産業を其のまゝに放任して置いては國民多數の利益にならない、それを國家が抑制して國民多數の利益になるやうにしなければならぬ。これに對して中小産業、農村産業は之を引上げ之を振興させるやうに促進的に統制して行かなければならぬ、一方は抑制、一方は促進、斯う云ふ方向に轉換して居るのが今日の情勢であります。

それであるから農村産業、中小産業者のための金融機關即ち商工中央金庫の問題が出来て来る、御承知の通り是は今まで議會に出しても却々通らない、が時局の影響の結果として最近の特別議會では之を通過した。其の資金五百萬圓云つてゐたが、それちや足りないだらう、一千萬圓に増してやらう云つて、増額してくれて眞つ先に通過したといふことは何を物語つて居るか云ふに、詰りそれは中小産業を促進しなければならぬ云ふことが、時局の影響として認められて来たのである、さう云ふ所から斯う云ふことが出来て来た譯であります。で、是が果して何處まで實現するか問題で、大産業を何處まで抑へ、中小産業を何處まで促進させるか云ふことが是からの問題であります。

ります。何しろ大産業は政府を動かす力が非常に強いのであるが、それを何處まで抑へ、中小産業を何處まで發展させるかが是からの問題である。方向はさつちに向いて居るかといふことさう云ふ方向に向いて居る、其のこゝを吾々は今日統制經濟の轉換しつゝあるのだ云ふ考へである。で、先に申した如く今日の時局からして經濟力を強めなければいかぬ、日本の經濟力を強めるには大産業を餘りに上らし過ぎてはいかぬ、それでは却つて經濟力が弱る、中小産業の方を殺してはいかぬ、大産業は大産業で維持發展せしめなければならぬが、それは多くの人の利益と一致するやうに維持しなくてはならぬ、それに對して中小産業をもう一つ盛んにしなくてはならぬ。さう云ふことによつて國民經濟力を強めるといふことが出来る譯であります、そこで其の點が今日の統制經濟の轉換に一致して来て居るといふ譯であります。

次には中小産業の將來の問題であります、是は從來の經濟學の考へでは結局斯う云ふ結論であつた。中小以下の小さいものは全部潰れてしまふ、是は實際界に勤めて居る方でさう云ふ安價な諦めをする小賣店も随分あるのである、日本でも確かに一部に企業が集中されて大きなものが段々勝利を得て中小以下のものが段々潰れてしまふといふことも一部にはありますが、全體としては必ずしもさうでない。最近殊に日本に就て經濟の實際を考へてみるにさう云ふ理論の誤りであるといふこ

こが最近分つて来た、こいふのは日本に就いていへば日本は明治初年以來今日まで六十年間發達したそれで日本は資本主義的には發展すべき所まで發展して居る、それでは中小企業が潰れてしまつて居るかこいふさうでない、全體に就て言へば日本では中小企業が殆ど絶對的の重要性を有つて居るのであります、之に就て色々な數字や統計もありますが此處では省略することに、詰り結論としては日本では殆ど總ての産業に於て中小企業が資本的に優勢であります、其の事實を見るに餘程是は考へ直さなくてはならぬこいふこが最近に問題になつて来た。段々考へて研究すれば研究する程日本には非常に違つた所がある、日本獨特の産業組織があるこいふこが最近になつて段々分つて来た。勿論それは一部には中小企業は潰れてしまふやうな傾向もあるが、それは産業部門によつて非常に違ふ、或る部門では中小が段々潰れる、けれども或る部門では中小が却つて強いこいふこは確かにある。大體に於て原料品の生産こいふものは均一性を要する、原料に使ふためには同じ物でないに困る、随つて原料品は大量生産に適して居る。随て原料品は大企業の方が有利で中小が潰れるやうな傾向はさうしても免れない。例へば紡績業の如きは中小は全部潰れて大企業だけになつて居る。又人絹糸にしても是は非常に均一性を要するから皆大規模大産業になつて居るが、今度は仕上品は全く別であつて、是は段々仕上の過程になればなる程變化性を要求する、變化性を

要求する場合には大企業には適しない、色々變つた品物を澤山作らうこ云ふこになるこ中小の方が有利になつて来る。是は一つの産業部門の原則であります。所が同じ仕上品にしても西洋物は非常に均一性を有つて居り日本向のものは非常に變化性に富んで居る。是は何に就てもさうでありま、着物でも西洋人は年がら年中同じ洋服で、多少暑い所も寒い所もあるが洋服一着で通すこ云ふのが大部分であります、所が日本の洋服になつて来るに夏には夏服、冬には冬服、春秋には合服色々な種類があり變化性がある。是は洋服が日本化されて来て居るこいふのである。和服なれば尚更のこ、西洋人の婦人服であれば非常に服地が均一性で色の區別があるだけで、柄の區別はないあつても少ししかない。所が日本の婦人服になるに模様がある、模様なるに非常に千變萬化でありますから、日本の婦人服地の仕上こいふものは大規模では出来ない。さうしても是は中小産業獨特のものでそこに非常に強味がある。日本人の生活は色んな點に於て趣味生活である、此の點に於て吾々日本人の生活は西洋人に比べて進んで居る。食べ物にしてもさうである、西洋料理こいへば大抵決つて居る、皿の數にしても、又出す順序までも決つて居る、總て均一性であるから大量ならば西洋料理だ、所が日本料理になるに非常に變化性があるので中小規模で行くこ云ふ譯であります。さう云ふ譯で西洋では中小産業は段々潰れてしまふ傾向はあつても、日本では却々潰れない色々な

條件があるといふことが考へられるのであります。殊に従来は物が機械化するに中小の方が潰れて大規模になるに考へて居つた、機械擦染のこゝは私能く知りませんが、一般に云ふに今頃では機械になつても小規模でやり得るに云ふことになつて来た。是は機械の素質が非常に變つて来た、それはさう云ふ點か云へば機械を動かす動力の關係であります、能く最近「動力革命が起つた」に云ふことを言はれますが、動力は従来はスチームエンジンであつたので蒸氣を用ゐた。さう云ふ時代には大規模の産業の方が有利で中小以下のものは潰れる、であるが最近是がなくなつて電氣動力になつて居る。電氣モートルで機械を動かすやうになれば中小企業で非常に有利にやれる事情になる殊に日本は山國で水力が豊富であるので電力が安く供給出来る。若し營利會社が電力を獨占して安く供給しないならば國家は電力の統制をして安く供給しなければならぬやうな問題が起つて来る。又交通の點に於ても將來中小企業の方に有利になつて来ると思ふ。云ふのは従來の如く汽車で運ぶ大交通ならば大企業の方に有利である。中小にまつては逆も引き合はない、所が最近トラック運送が便利になり小企業であればトラックが戸口から戸口へやつて来てそれを直ぐ神戸まで運んで、そこから輸出することが出来るとなつて中小産業の力を益々増して来ることになる。今一つは日本人は國民性として非常に中小企業に適して居る。最近ファッスナーのこゝに就て日本にアメリカ

カミの間に問題が起つて来た、ファッスナーといふのは財布やハンドバッグ、又シャツ、靴などに使つて非常に流行して居る、こつちへ引つ張れば口が開いて、戻せばすほむ様に出来た口金であります。此のファッスナーはもつとアメリカで出来て日本は之を輸入して居つた、そして非常に高かつた、所で日本でもそれを造らうに云ふことになつて研究してみるにこれは機械で造つて居る、ここで日本で其の機械を買はうとするにパテントを持つて居つて何百萬圓も出さなければ買つて来れない、そこで大阪あたりの人が色々研究して機械を使はずに家内工業でそれを造ることを考へ出してそれに成功した、そしてアメリカ人は是が非常に好きで靴とかシャツとか洋服とかに使つて非常に流行つて是れの需要が非常に多い、此の手で造る方がアメリカで機械で造る三分の一の値段で出来る、今はアメリカに向つて逆に盛んに輸出して居る、アメリカの方では機械でやつて居るが日本では之を手先で組んで今日何百萬圓といふ輸出額に上つて居る、そこでアメリカの方では是では溜らぬといふので三割五分かの關稅をかけたが、三割や四割の稅ならばもう少し能率を上げ一生懸命になつてやつたならば關稅を飛び越えて向ふへ這入るのであります、關稅だけでは止まらぬといふので數量統制をやらうに云ふ形勢が見えるので是が非常に問題になつたのであります。數量統制となるに數が決つてしまふからもう絶對絶命、這入らない、それで日本の外務省、商工省にア

メリカの通商局あたりで交渉中であり、是は一例であります。是は何を意味するか云へば日本人が非常に手先が器用である、機械に負けない、此の手先の器用云ふところが非常に中小企業にまつて有利な点であります。是は日本人獨特の性質であります、手先のみならず足先まで非常に器用である。吾々が外國へ行つて下宿して居る、お内儀かみさんが吃驚するのは、日本人は足で物をはさむ、ハンカチが落ちたり帯が落ちたりするに挟んで足で舉げる、さう云ふ所を見るに外國人は非常に吃驚する、此の足先まで器用だといふところが身體全體の能率に非常に影響する譯であります。是は研究して置いてよいことと思ひますが、足先に力を入れるに云ふところが仕事の能率に影響する足を延べて坐つて居るに體が緊張しない、立つて足先に力を入れて居るに非常に能率が上る、それだから此の日本人の足先の器用だといふところが中小企業に非常に有利であります。もう一つ、手先の器用だといふことは又頭の器用だといふ證據であります、日本人程頭の器用な國民はない、外國人に接せられた方はお分りだと思ひますが、フランス人は尤も日本人に似て器用であります、最も鈍いのはイギリス人、けれども日本人にも亦缺點があり、西洋人のやうに一つのことを長くやり通せない。けれども中小企業の經營だといふことになるに頭が器用で非常に轉換の速いことを要する、色々なやりくりもしなければならぬ、借金もしてやらなければならぬ。非常に頭が働かなければ中小

企業は出来ない、さう云ふ點から云ふことは日本人獨特の國民性であり、中小企業に最も適するのであります。そこで日本の商品が盛んに世界に進出して居るのでありますが、それは何處で造るか云へば大部分は日本の國內の中小工業で造つたものであります、だから今日日本の商品が外國で強いといふことは日本の中小企業が強い云ふことでもあります、其の邊を十分に認識しなければならぬのであります。それを中小産業が潰れてしまつて大産業になつてしまつたら結局外國と同じこと、だから日本の經濟が將來行き詰らないで永久に世界の經濟を支配しよう云ふならば、日本の中小産業を何としても維持し發達させなければ日本人獨特の産業組織は成り立たないと思ふのであります。もう一つ日本獨特の産業組織云ふのは中小産業の一つの農村産業であります、即ち日本では農村がまだ、餘程残つて居るに云ふことである、是が日本の非常な強みであります、イギリスの如きは農村がなくなつて、もう殆ど残つて居らない。人口の八パーセント位しか残つて居らない。日本では五十パーセント即ちまだ半分残つて居るから、農村から低廉にして豊富な労働力が入れ代り立ち替り出て来る詰り日本は農村があるが爲めに労働力の新陳代謝が理想的に行はれて居ります所がイギリスの如きはこの新陳代謝が行はれて居らぬ。そこで非常に經濟の力が弱いといふことになる。日本の綿布はイギリスの綿布と競争して非常に違ふ。段々世界の市場からイギリス綿布を驅

逐して、もう世界市場の七割位は日本が取つてしまつた。こいふのは事情は色々ありますが、根本的には右の事情であります。さうするに農村の経済を半分残して置くこいふことが日本の商工業が將來行き詰らないで永久に繁榮する爲に必要なことなる。それだから私の今日まで考へた結論では日本獨特の産業組織こいふものは一つは中小企業の上に立てるこいふこと、もう一つは農村經濟を生かしてそれの上に立てること、是が將來日本の産業に發展性を持つて來るものである。私は今日の場合考へて居るのであります。さう考へるに日本の中小産業こいふものは日本の經濟に取つては非常に重要な地位を占めて居る。大産業なら諸外國に大した相違はない。けれども中小産業の點に至つては外國の追隨を許さない。さう云ふ譯で中小工業こいふものは非常に強みがある。

併しながら同時に又非常に弱味がある、其の中小産業のさう云ふ所が弱味かこいふことは斯う云ふ點である。日本の中小工業こいふものは今申し上げたやうに非常に強味を有つて居るがそれは對内經營であつて、對外經營即ち仕入過程、販賣過程こいつたやうな外部に對する經營力が非常に弱い、是が中小産業の第一の弱味であります。小賣店と百貨店とを比較すれば内部の經營としては小賣店の方がずつと安く行つて居る。が對外經營になるに仕入の方に於ては百貨店の方は大量に仕入れて有利なこいふ小賣店の比でない。又販賣の方に於ては宣傳力、廣告力を有つて居るので非常に

力が強い。此處の所では全く小賣店は相手にならぬ。それは中小工業の場合も同じことであります。内部の經營では有利でありますが仕入販賣の方に於ては逆も大工業には適はない。斯う云ふ點が一つの弱味である。だから中小産業の對外經營を如何にして強くするかこいふことが一つの問題であります。それに就ては色々のこと考へられますが、其の有力な一つが組合統制であります。組合を作るこいふことによつて對外經營を強める。之をやらなければ本當の力にはならない。本當の働きをしない。組合を作つてやれば大規模以上の仕入力を持つて來る、又販賣力も同じことあります。それから第二の弱味としては、中小工業こいふものはお互に非常な自殺的な競争をするこいふこと、此の競争をしないやうにするにはやはり組合統制でやる。是は數量の統制も必要だらう、價格の統制も必要だらう、兎に角此の弱味を強めるこいふのがやはり組合統制の一つであります。それからもう一つ第三の中小企業の弱味こいふのは金融力の非常に弱いこいふことであります。今日は超低金利時代ではあります。本當の低金利こいふものは中小産業の處へは潤つては居らない。そこで豊富な低金利を十分に潤はして行かなければ中小産業こいふものは本當に繁榮しないこいふことになります。そこで色々金融統制こいふことが問題になつて來た、金融は放つて置いては大きな所へ行く、之を統制的に中小企業の方へも行くやうにする。それから金融力の統制、最近資本金壹千萬圓

を以て商工中央金庫が此の秋に店開きをするこゝになつて居ります。それは十倍の社債が發行出来るから壹億壹千萬圓の資金を持つ譯であります。所が壹億壹千萬圓の資本で以て商工中央金庫が出來ても中小商工業にはそのまゝに金融は出來ない。やはり金融力を強めるためには組合的な統制で以て行かなければ出來ない。斯う云ふ譯であります。さう云ふ風に進んで行くならば中小工業の將來は決して悲觀すべきものでないと思ふ。が、此の組合といふこゝは却々容易なこゝではない。私は想像する。今日は農村産業組合云ふものは非常に發達して居る。今日さう云ふ新しい經濟の動きから見ると都會の方は非常に遅れて居ります。中小商工業者が今まで威張つて「農村」、「百姓」、ミ馬鹿にして居つたが、最近の傾向では百姓の方がぐんぐん進んで居る。それは百姓自體が進んで居る譯ではないが、詰り行政關係者が段々之を導いて行つて居るからである。ミ云ふのは今日は經濟の大變動期であつて何を一つするにも今までのやうには行かない。非常に困難である。が、是は一方から云へば非常に面白い時代だとも云へる。斯う云ふ大變動の波に乗るか乗らないかによつて成功か失敗か分れるのであります。從來商工業者が多く景氣變動云ふこゝを問題にして、吾々の處へ來ても、一體景氣はさうなりますか、好くなりますか、悪くなりますか云つて景氣變動ばかり氣にして居る。是は無理もない、が、今日の變動は景氣變動のやうな上つ面の變動ではない。景

氣變動云ふものは經濟の上つ面の波であります。其の波に乗つてうまく乗り切らなければならぬこゝは勿論必要であります。今日の變動は構造變動であります。所謂からくりの變動であります。景氣變動なら量的に變るから誰でも分るが構造變動の方は性質が變るから誰にでも見えない。だから斯う云ふ時代には最も困難ではあるが、又考へ方によつては最も面白い。斯う云ふ時代には構造變動の波に乗つてうまく乗り切ればよいが、それに溺れるミ落伍者になる。だから今日のやうな場合には經濟の動いて居る方向を知ることが非常に大切なこゝであります。其の動向は色々ありますが、先に言つたやうに今日は放任から統制へ動いて居る。それが今日の動向であります。其の動向に最も早く乗つて居るのは農村である。農村は遅れて居るミ考へて居るが却つて其の動向に乗つてぐんぐん押して行く。それから産業組合の進出、都會の青年なミはさう云ふこゝは考へないで各々テンクバラ／＼に自分勝手にやつて居る間に産業組合がぐんぐん進出してしまつたから、もう今日では取残されてしまつて居る。遅れ馳せながら最近商業組合だミかまあ色んなこゝをやつて來て居るのであります。農村の人は尙ほよいこゝは却つて共同し易い、商工業者は兎に角、「自分は一城の主だ」といふ考が強いから、みんな統制的に一緒にやらうミすれば何か一言挿まなければ收まらないこゝいふ風になり易い。是は一方からいへばよいこゝではあります。其のために統制がこれない。商工

終

